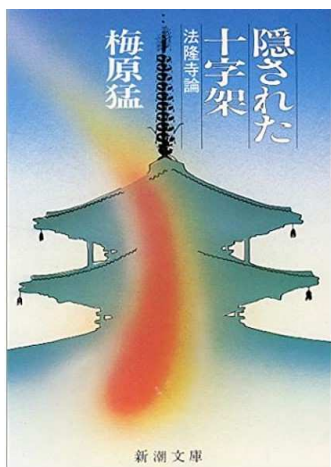


隠された十字架・法隆寺論

著：梅原猛　（新潮文庫）◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆



■哲学者・梅原猛（うめはら たけし）

大学時代、本っておもしろいなと思うきっかけとなった1冊です。建築に関わる本かな、とフツと手にとったらハマりました。法隆寺の中門は中央に柱があるんですけど、中門は怨霊を封じこめるためにある、と言うんです。聖徳太子一族25人が虐殺され、虐殺者達によって建てられた鎮魂の寺ではないか、と梅原さんは想像するのです。梅原日本学とも言われ、仏像・建築・工芸・文献・祭事・能などをよく見て、その謎に迫る推理ドラマのようです。梅原さんの仏教本も多くあるのですが、建築史にはお寺も多く登場するので、インド～中国～日本の華嚴、天台宗（最澄）、浄土宗（法然）、浄土真宗（親鸞）、密教（空海）、禅（道元）、日蓮宗などを少しでも勉強すると、お寺を見る目もおもしろく養われそうな気がします。

～梅原猛の世界～

国際日本文化研究センターの所長等歴任、「隠された十字架」で毎日出版文化賞を受賞。

- ❖ 聖徳太子（1～4）、塔（上・下）、地獄の思想、哲学する心、神々の流ざん・・・
- ❖ 仏像～心とかたち（1～2）共著、仏教の思想（1～12）共著、歓喜する円空、など
- 神と仏のものがたりから、アニミズム（精霊・地霊信仰）、宮沢賢治の童話の世界へとつながり、ムツゴロウの小説から、スーパー歌舞伎とよばれるド派手な歌舞伎の脚本もかかれています。知と真理を愛し、人間の恐ろしい闇の部分の部分をしっかりと見つめながらものすごい情熱で哲学する心を忘れない、尊敬する哲学者です。



■ジャーナリスト・ノンフィクション作家・立花隆（たちばな たかし）

ものすごく射程範囲の広い方で「立花隆のすべて（上・下）」という本がありますが、とても伝えきれていません。立花さんは借金 1000 兆円超の日本経済を危惧しています。若い頃の「エーゲ・永遠回帰の海」という本が、本人一番お気に入りの本のようです。

～NHK人間大学「知の現在・12回シリーズ」youtube 動画より～

- ❖ 体験的ジャーナリズム論「アメリカジャーナリズム報告」等・本質は権力の監視
- ❖ 田中角栄研究～天皇と東大 ❖ 宇宙～科学と哲学が会う場所❖ サル学の現在
- ❖ 脳死～死の本質を考える ❖ 臨死体験とは何か❖ 利根川進と分子生物学「精神と物質」
- ❖ 電腦進化とインターネット ❖ 脳の研究～人間学にせまる

西洋哲学の学問の世界から、雑誌記者、最先端科学（宇宙科学、分子生物学、脳科学、コンピュータの世界等）への興味・探求、宇宙のはじまり～精神と物質をゆらぐ人間。NHK人間大学は古い番組ですが、他に「天皇と東大」「こんな本を読んできた」シリーズ、新書「ヒト・エンスの未来」「知的ヒトの見つけ方」「四次元時計は狂わない」等。四次元時計は、日本でいま世界最高の時計が作られつつある・・・からはじまります。地下資源探査や地震予知にも使えそうな応用が次から次に出てくるとのことです。夜明けとともに1日がはじまり夜の到来とともに一日が終わった、江戸時代の和時計からザビエルが伝えた西洋時計、そしていま日本はもう一つ世界一をもつ、と言います。大地創生の謎にせまる～驚異の火山・動画NHKスペシャル「新島誕生・西之島」も面白い。科学・化学が日本の未来を開く。尊敬するジャーナリスト・ノンフィクション作家です。（案内：黒野）

